

## 審議会会議録

会議名称	平成28年度 第2回伊達市立図書館運営協力会		
議 題	(1)伊達市立図書館あり方検討委員会の進捗状況について (報告) (2)読書感想文第2次審査員について (3)平成28年度図書館概要について (4)図書館運営に係る意見交換		
開催日時	平成28年9月2日 (金) 14時00分～15時00分		
場 所	伊達市立図書館 2階 視聴覚室		
出席者	伊達市立図書館運営協力会委員 8名 (欠席者2名) 事務局 (伊達市教育委員会教育部図書館)		
	所管部課名	伊達市教育委員会教育部図書館	
公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	1名
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	

## 【会議の概要】

1. 開会
2. 議事

(1)伊達市立図書館あり方検討委員会の進捗状況について (報告)

## 【会長、委員より報告】

会 長～伊達市立図書館あり方検討委員会は、年5回の開催が予定されている。既に2回の会議が開催され、3回目が今月14日に予定されている。

第1回目の会議では、委員の委嘱、伊達市立図書館あり方検討委員会の設置目的と役割についての説明、委員長・副委員長の選出、伊達市立図書館の現状と課題についての説明、施設見学が行われた。見学では、閉架図書や保存している新聞の多さに各委員は驚いていた。

第2回目の会議では、今後の図書館に求められる機能についての意見交換が行われ、施設見学で感じた事の発表や質疑、他市との比較資料に関する質疑が行われた。施設見学での印象や問題点としては、閉架図書が多い、施設が狭い、高齢者や障がい者の利用が困難、新聞の保存方法の検討が必要、子供と本を楽しめるスペースの確保が必要、児童図書の見せ方の工夫が必要、中高生の学習スペースの確保が必要、サロンのスペースの確保が必要等の意見があった。今後のあり方という事で、市役所の隣だとアクセスが良いかもしれないが、緑があって広いスペースがあるという事で、アクセスや環境整備をして、やはり今の場所が良いのではないかとの意見があった。また、私から今までの図書館運営協力会の提言についても報告した。

これは、私の個人的な考えだが、今後の会議では指定管理者制度、学校司書制度、地域文庫、移動図書館車についても話し合う価値があると思う。

委 員～会長から報告のあった他、インターネット環境の整備が必要、わかりやすい案内掲示の整備が必要、他市と比べても利用率が高い割に必要な職員数が配置されていない等の意見があった。

会 長～まだまだ進行途中であるため、以上で経過報告とする。報告内容について何かあるか。

全 員～なし

(2) 読書感想文第2次審査員について

【事務局より説明】

【質疑・意見交換】

委 員～昨年、一昨年と審査を担当したが、応募の作品数が少ないと思う。近所の小学生が本を読むのが好きだということで、読書感想文を書いているのか尋ねたが、事業自体を知らなかった。学校の先生も大変だと思うが、何らかの方法で応募数を増やせないか。

委 員～応募数はどのくらいか。

事務局～大滝も含めた市内の小中学生が対象で、小学生は、平成25年度が77人、平成26年度が83人、平成27年度が63人。中学生は、平成25年度が32人、平成26年度が21人、平成27年度が19人の応募があった。

委 員～すそ野を広げる取り組みをどこかにお願いできないか。

会 長～お願いの仕方が難しいが、校長会選出の委員がいるので、図書館運営協力で話題が上がった事を伝えていただきたい。室蘭市は市教育研究会の図書部会が主催して読書感想文事業を行っている聞いた。校長会を通じて各学校で応募作品を増やすよう伝えていただきたい。

事務局～平成25年度に、各学校での負担が大きいの応募数の義務化は厳しい状況だと校長会から申し入れがあった。そこで、各学校の担当者と検討会議を開催し、自由応募とすること、審査に関しては1次審査のみで、2次審査はボランティアで退職校長や図書館運営協力会委員に協力をお願いすることとなった。それで、何とか今の事業を継続している状況である。

会 長～我々も2次審査に協力することで歩み寄っているので、学校側も夏休みの課題にするなどして、応募数を増やす協力をしていただきたい。子供に本を読ませることは学校の機能としてすごく大切なことだと思う。

委 員～私は高校で国語を担当していたが、先生方が負担に感じるような事業としては可哀そうだと思う。私の経験では、夏休みの課題としてやる場合が多かったが、課題となると先生は全員の感想文を読まなければいけない。これは非常に大変なので、自由応募が良いと思う。その結果、応募数が少ないから仕方ないという事ではなく、子供たちに感想文を書く動機づけをする必要があると思う。

どれが一番良い方法かわからないが、読書感想文を書く事での子供たちへのメリット、子供たちが自主的に感想文を書くことよっての先生や学校へのメリットがどうなのか。そういうことを考えていかなければいけないと思う。

例えば、最優秀に選ばれた作品を文部科学省や各新聞社主催の読書感想文コンクールに応募するとか、高校ではそういったことも行っている。今すぐ答えは出ないと思うが、そういったことも考えていかなければいけないと思う。

事務局～補足での説明だが、全道の読書感想文コンクールへは併願する事が可能という事は募集時に伝えている。自由応募に変える前は、生徒数の多い学校は応募も多いため大変だし、生徒数が少ないところは全員に無理して書かせなければならぬ状況で大変だったと思う。

委員～伊達市の場合は、室蘭市のような教員の会はあるのか。小学校に本の読み聞かせに行っているが、やはり先生方は忙しそう。昔に比べると、顕著に感じる。

会長～教育研究会という先生たちの団体があり、教科ごとに部会がある。室蘭市では、そこの図書部会が主体となって読書感想文事業を行っている。図書館から学校に依頼する伊達市とは逆のやり方である。

委員～学校の図書室と図書館との連携を強めていきたいと以前話が出ていたと思うが、定期的な会議のようなものはあるか。

事務局～ない。

委員～そういう場があれば、応募状況などを伝えてPRしていくという方法があると思う。

会長～各学校の先生たちに伝えるのは難しいかもしれないが、校長会を通じて少しでも現状を伝えていただければと思う。

委員～子供たちにとっての読書の大切さや、感想文を書くことの大切さは、各先生も理解しているが、応募数が増えない理由として、税の作文や人権作文など、色々な所からの応募依頼や今時期は弁論大会の準備等もある。先生たちの負担もそうだが、子供たちの負担も近年大きくなってきている。塾や受験勉強もあるので、自分で何かやろうという時間がなかなか取れなくなってきている。強制的にとか、無理に書かせるという事は難しいと感じる。

委員～学校で先生たちが子供にどう伝えるかという事も大事。熱意をもって伝えるかさり気なく伝えるか、ちょっとした伝え方の差でやる気を引き出せる。分かりやすいポスターを掲示するのも一つの手段だと思う。なんとか、子供たちにわかりやすく伝わる取り組みをしてほしい。

委員～図書館から各学校へお知らせのポスターを配っているが、A4の物が廊下に貼ってあるだけ。子供たちの目に留まりづらい。校長先生自身が意欲を持って、子供たちの向上心のためにやってあげたいという気持ちがないと難しい。図書館も、依頼するのであれば、我々皆でポスターを作って学校の図書室や正面玄関に貼ってもらうとか、生徒自身が向上して意欲を持つようなPR方法が必要かと思う。

会長～現実的にどう動くかは難しいが、出来ることからやっていくしかない。

委員～発想を転換して、応募が多いことに越したことはないが、図書館の事業としてやっていくのであれば、学校にお願いするのではなく、少なくとも良いから、図書館に来る本が好きな子や、意識の高い親に向けて図書館で募集してはどうか。

会 長～一番良いのは子供たちが自発的に参加したいと思う事。図書館は、学校に依頼するだけではなく、館内でも積極的にPRしていくと良い。  
議題の、審査員の協力依頼については、よろしく願います。

(3)平成28年度図書館概要について

【事務局より説明】

【質疑・意見交換】

委 員～来館者数が昨年に比べて減っているとの事だが、WEBでの予約に関しては浸透してきており、その影響で来館者は減ってもその分の貸し出しが増えているという事はあるか。

事務局～来館者数、貸出冊数共に減っている。

(4)図書館運営に係る意見交換

会 長～特にテーマは設けず、ざっくりばらんに意見をいただきたい。

委 員～伊達市立図書館あり方検討委員会で、図書館はこの場所が良いとの話が出たと報告があったが、やはり夜になると周辺が暗い。車社会だから歩く人はあまりいないかもしれないが、若い人や女性にとって危険な場所だと思う。

会 長～以前も同じ話が出ていたが、外灯は増えたのか。

事務局～外灯は増えてはいない。明かりを遮っていた木を伐採して少しは改善された。

委 員～何かあってからでは遅いので考えてもらいたい。

委 員～登別の図書館にレファレンス用の専任スタッフがいると聞いた。専用の窓口があれば問合わせやすいと思う。伊達の図書館も司書に聞いたらみんな親切に対応してくれるが、仕事の手を止めてしまうので、聞きづらい。

事務局～現在、カウンターに司書を1人配置して対応している。事務室内の司書も問い合わせにはすぐに対応できるようにしている。専用の窓口を設置し、問合わせを待っている状態ではないが、色々な作業をしながらも対応を行っている。

委 員～他の仕事をしているときに聞くのは申し訳なく思ってしまう。

事務局～図書館として、問合わせしづらい状況を作ってしまったって申し訳ないが、職員が少ないため、このような業務体制しかとれない。

委 員～レファレンス専任の司書を配置するのは需要と供給の関係から非常に効率が悪いと思う。業務量に対して職員数が少ない図書館なのだから、他の仕事をしながら、問合わせにも対応する体制しかとれないのが現状だと思う。分からないことがあれば、ここにお問合わせくださいというような表示をすることぐらいしか現状ではできないと思う。

委員～先日、小学生のためのお話会を1階児童書コーナーで開催した。やはり、静かに利用したい他の利用者に迷惑がかかるのではと不安になる。

会長～提言書作成に向けての意見として整理する。

### 3. その他

【ブンブン文庫より活動20周年記念の作品展示会についての周知】

事務局～次回開催は平成28年11月4日(金)午後2時から。

### 4. 閉会